

【担当教員名】 丸山 敬子	対象学年	2	対象学科	看護
	開講時期	後期	必修・選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【<概要>又は<一般目標：G I O>】

急速な高齢化・家族構造の変化・人々の健康意識の変化によって、在宅ケアのニーズは増大している。それに伴い、看護職に求められる能力も複雑で高度化してきている。こうした背景をふまえ、在宅看護学では、保健・医療・福祉の有機的な連携を基盤として、在宅療養をしている人とその家族を「地域で生活すること」「その人らしく生きること」に視点をおいて理解し、地域保健医療福祉活動のなかの在宅看護の位置付けや役割を学習するとともに、今後の課題や展望について考える。

【<学習目標>又は<行動目標：S B O>】

1. 在宅看護が必要とされる背景を述べる
2. 在宅看護の対象となる個人と家族の特性、在宅療養者の権利保障について述べる
3. 在宅看護における人間関係の基本を討議する
4. 保健医療福祉対策、在宅ケア提供施設、ケア体制について説明する
5. 在宅看護の今後の課題と展望について討議する

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	社会の諸情勢の変化と看護の役割・在宅ケアニーズの動向	1	講義
2	個人の生き方と生活の場としての在宅療養	2	個人及びグループ学習
3	在宅での看護機能と特質	2	講義
4	在宅での看護機能と人間関係づくり	3	個人及びグループ学習
5	在宅での看護機能と人間関係づくり	3	個人及びグループ学習
6	在宅ケア体制の現状	4	講義
7	在宅看護の今後の課題・展望	5	個人及びグループ学習

【使用図書】	<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格・その他>
教科書 (必ず購入する書籍)	新体系看護学 34	在宅看護論 村松静子	メヂカルフレンド社	2006 3,100円
参考書	適宜紹介する			
その他の資料	必要に応じてプリントを配布			

【評価方法】 授業参加状況(10%) 試験あるいはレポート(90%)	【履修上の留意点】
------------------------------------------	-----------